





# 1 寺 社

幡社

12・17 経王寺寺格昇進、緋紋白袈裟並びに綱  
代乗興許容

12・19 神明社内天神社、誓願寺弁天社再建願  
い

12・21 称名寺、浄巖寺等に付き、監視方知恩  
院より依頼

12・23 如来寺、称名寺より届け書提出

文化14年 正・元 浄巖寺、蓮生寺役は生野玉翁院弟  
子が相勤める旨申し達し

2・朔 如来寺より三か寺、寺役に付き届け書

4・4 桐野村慈眼寺、住持留守中焼失

6・28 宗鏡寺本堂出来、御先祖方位牌御移し

6・28 西林寺聖天、御神体紛失(盗難)

9・25 伊福辺社屋根破損に付き、花角力興行  
願い(中村不動院)

文化15年 2・10 中村観音堂へ寄進のため、七軒町  
若者十五日間念仏願い

文化12年 正・24 庚申堂造作のため十日間の歌舞伎

興行願い(金剛院)

2・13 福成寺にて、信州栗林村正行寺宝物披

露願い

5・17 遊行上人巡行日程(御領分のみ)

5・19 遊行上人到着(昌念寺泊まり)

6・2 遊行上人、九日市村西迎寺にて一昨二  
十九日入寂の由

6・28 寺院御目見え

文化13年 4・3 福成寺、永代経並びに下河原にて

芝居始め

5・13 時鐘を打つ、打たず問答(昌念寺)

8・13 八幡祭礼に付き御馬拝借願い(荒木村八

社

3・13 今日より十七日迄善光寺如来御開帳

(如来寺)

1 寺

5・4 中村不動院本尊護摩檀、再建のため百

日念仏願い

文政元年 7・朔 田多地善光寺後住に、昌念寺弟子

宜詮入寺

8・朔 稲荷社修覆に角力興行(黒田周防)

8・20 福成寺橋修覆のため曲馬興行願い

9・20 一切経拜請に付き経蔵(二間半四方)建

立願い(見性寺)

12・7 西宗寺後住は小僧へ仰せ付け

12・10 福居村西光寺来年三月十四日より十八

日迄、入仏供養

文政2年 4・晦 吉祥寺結制のため、請待の和尚明

日入寺

5・17 黒田周防持ち稲荷社、官位願いに添翰

願い

6・10 昌念寺より高札の書き替え願い

7・6 時鐘二度撞きを謝罪(昌念寺)

7・12 当月祭礼日程

8・10 愛宕社再建願い、三間四方(不動院)

9・15 多茂宮鳥居再建に付き、角力興行願い

10・朔 本高寺塔中尊重院、再建の堂供養願い

(来辰年三月)

10・27 長専寺庫裏再建願い(五間半に四間一尺)

12・21 今晚節分に付き、東西御門より諸杉参

詣許可願い

文政3年 2・20 経王寺塔中感応院、鬼子母神開帳

鐘撞き仕り度く願い

2・晦 法城寺芝居三月五日より始め

3・28 法城寺願いの芝居昨日限りにて相仕舞

い

4・7 本堂再建のため、托鉢修業相願い許可

(善立寺)

8・28 神道講釈(黒田周防)

9・17 諸杉本社修覆相済み、入用の品借用願

い

11・10 御三代御霊屋小出家位牌所再建に付き、

上野御林中の松木五本(目通り五尺)頂戴致し

度く願い(宗鏡寺)

12・10 惣持寺、鐘破損に付き鑄直し度く願い

文政4年 2・4 惣持寺、三月四日鐘鑄のため托鉢

願い

2・晦 畑村本覚寺火事

4・17 福居村西光寺住持弟子共々出奔に付き、

昌念寺兼帯

7・9 鐘鑄のため町在へ托鉢願い(惣持寺)

7・23 宗鏡寺御宮寄付是迄通りに改正

10・19 法城寺番神堂屋根修葺のため、芝居興

行願い

12・23 経王寺加州公より御紋付き紫衣拝領

文政5年 正・27 日野辺村大宝院、柴燈護摩のため

立て札

閏正・13 智教院稲荷社大破に付き、操り芝居

興行願い(許可)

閏正・17 東本願寺先触れ、出石御本陣泊まり

(橋本茂兵衛方)

閏正・27 来月上旬西本願寺御門跡、城崎御入

湯の節御城下御止宿に付き、役割り等発令

2・7 西本願寺御門跡順路、久畑―出石御泊

―清冷寺

2・9 西本願寺御門跡十一日御入湯に付き、

御家中へ申し付け

2・11 御門跡出石到着

2・12 御門跡出石御発駕

2・15 西本願寺より御礼、係役人に下され物

3・4 西本願寺御門主御揚湯、播州へ向け当

城下通行先触れ

3・6 西本願寺御門主暮れ前御本陣御着(吹

田屋茂兵衛方)

3・7 西本願寺御門主今朝御発駕

4・20 善立寺本堂造作のため芝居(来月十日よ

り晴天七日)興行願い

7・15 西本願寺奏者役広瀬丹解、御使いとして御礼

7・20 西本願寺よりの使者、逗留中の町方諸入用ノ高四百三十七匁六厘、吹田屋、油屋、真覚寺、岸田屋等

10・17 経王寺じょうおうん入院挨拶に付き一束一本(二束) 杉原紙十帖、一本 扇子一本、礼物)

11・4 宗鏡寺隱退願い、後住は弟子正堂の予定、来春入院

12・12 宗鏡寺金嶺和尚遷化、明後十四日夜九ツ時内葬

文政6年 3・晦 西方寺にて越後高田長福寺の宝物拝礼

5・11 宗鏡寺入院御礼に罷り出、一束一本差し上げ

12・5 桐野村慈眼寺鐘鑄願い(来春三月)

文政7年 3・29 一宮社二千年御神忌明朔日より執

4・4 本覚寺にて軍談

4・12 鳥居村荒神社取り繕いのため、歌舞伎興行願い

閏8・14 妙見、三十番神社と合祀のため夜題目修業願い(本高寺)

11・29 龍谷寺老衰にて隠居、弟子宗堅を住職に願い出

文政8年 4・27 遊行上人来月中旬ごろ相見え候に

付き宿割り申し付け

5・26 遊行上人七ツ半時過ぎ昌念寺着

6・朔 嘉利帝かりてい(鬼子母神)屋根修覆願い(持徳院)

6・13 嘉利帝屋根修覆出来、明十四日正遷宮

8・5 福成寺入寺(三日に大和郡山光慶寺大仙後

住と決定)

8・7 福成寺証文(大権)

文政9年 正・19 西方寺屋根修理のため、軍談十日

催し度く願い

2・9 下り松丹信庵破損修理のため説法

2・11 高福寺彼岸会法談(昼座)

3・5 十五日見性寺経堂入仏供養及び軍談興行、五日増し願い

6・19 智明院普請に付き杉三本成し下され度

く願い、許可

8・11 八幡宮へ太鼓奉納(智明院)

11・25 見性寺より且中工藤仁兵衛伴、老母面会のため徘徊御許容願い

文政10年 3・13 大師尊像再興に付き城下托鉢願い

(知明院)

12・11 経王寺入院に付き、使者を以って下さ

れ物

文政11年 6・21 心光院天神社再建に付き、二十三

日暮れ六ツ時遷宮

6・23 如来寺にて明二十四日曲力持ち興行、

家中見物可(雨天のため二十五日に興行)

8・26 数年来毎月二十四日御廟参拝の家中三

人を宗鏡寺より申し達し

9・5 秋葉社大破に付き寺内に建立のため、

松、杉頂戴願い、許可(吉禪寺)

11・16 老年の父に面会並びに墓参のため、城下徘徊願い(福成寺且中)

12・朔 大興院殿(仙石久勝)位牌、来る四日に

宗鏡寺へ納入

文政12年 正・21 西本願寺より御代替えに付き御使

い僧罷り出

2・27 如来寺本堂再建に付き、三月十四日よ

り三日間石場つき興行願い

3・10 鷹津新左衛門老母に面会のため、弟周

平の城下徘徊願い(見性寺)

4・13 鷹津周平、甥加藤鎮平宅に逗留

4・15 一昨日罷り越し候周平、其の朝差し戻

し御礼申し達し(鎮平)

4・15 加藤鎮平不念に付き差し控え伺い

文政13年 4・15 年々当月十七日権現様御法会、寺

限り仕り度く(宗鏡寺)

5・4 墓参、母面会のため徘徊方御願い、本

高寺(弓削弘)

7・7 近藤宗太郎亡父年回に付き城下徘徊願

い(本高寺)

10・朔 本堂修覆のため軍講十日興行の願い

(西方寺)

12・5 宗鏡寺正堂、大徳寺出世について許容

願い

天保2年 3・15 宗鏡寺正堂出世のため、二十四日

京へ発足の旨申し達し

4・27 且縁渡辺裕介、京都住居許容願い取り

次ぎ(経王寺)

8・5 称名寺慈誉老衰に付き、佐治村称念寺

諦定を看坊仕り度く願い出

8・7 吉祥寺出奔(見性寺より申し達し)

10・朔 宗鏡寺正堂出世相済み今日帰着

10・5 十一日正堂和尚御礼のため罷り越し候

に付き向き向きに申し達し

10・10 香住大乘寺、昨夜中盗難により灯籠、

香炉等紛失

天保3年 正・16 御城稲荷橋御懸け替え、明日より

取りかかり

4・27 宗鏡寺正堂道号を正順と改号

7・朔 高石塔会十六日に執行(采高寺)

7・5 本高寺隠居、弟子養児院後住仕り度く

願い

9・朔 本高寺入院御礼

11・13 一宮において晴天三日奉納角力興行許

可

天保4年 3・5 宗鏡寺正順、東海寺輪番近々出京

に付き白銀百枚

5・27 三日の念仏修行願い(昌念寺、称名寺)

5・28 浄徳寺大円一件にて慎み中、歎書によ

り赦免(勝林寺)

6・11 吉祥寺境内地十三間に四間の処、お買



い上げ銀十枚

6・15 裏谷山秋葉社跡地、お買い上げに相成り見分(普請奉行)

6・18 福成寺弟子江戸にて越訴、御取り上げ相成らず

7・朔 京都紫竹村忍佐と申す者、弟子に仕り度き旨申し達し(経王寺)

7・11 地藏堂建立願い(田結庄町、地藏講中の者)

7・21 伊福辺、稲荷、天神三社相殿にて仮宮殿建立仕り度く願い(不動院)

9・23 正順和尚八月二十七日着府、当朔日登城濟み(正眼寺)

11・27 老母並びに先祖墓参のため徘徊願い・原新七郎(経王寺)

11・28 徘徊御赦免御礼(原新七郎)  
天保5年 5・21 川下祭に付き仮護摩堂建てたく相願い、許可

8・7 西林寺聖天社南の方板戸、風雨にて破損

9・16 願成寺より御法号持参(天真院殿)

9・20 宗鏡寺正順和尚昨夜帰寺  
11・12 忌明けに付き諸杉神事、今、明日に執行

天保6年 6・朔 西御殿の大黒天、松の宮、本高寺へお移しの旨仰せ出し

6・18 西御殿より大黒天、松の宮、今朝本高寺へ引き渡し

6・晦 宗鏡寺に御廟相建て候旨  
8・5 本覚寺にて親鸞御木像御開帳

9・朔 太田多門徘徊願い、昌念寺より差し出し、許可

9・27 稲荷社普請出来、来月朔日遷宮  
12・朔 宗鏡寺(正順)紫衣に付き、外寺より先に焼香

天保7年 10・27 願成寺無住に付き、当座弟子闍首

座看坊申し付け

天保8年 2・11 真覚寺彼岸会法談(西宗寺天然)

2・11 吉祥寺より華藏院殿(仙石久倫)ほか、

御先祖供養仰せ付け方御願い、

3・7 御城稲荷、諸杉へ参詣の刻限について

町方へ触れ

6・9 寺院書付け(宗鏡寺は兼帯)

7・4 西本願寺御使僧これ有り、宿札場にて

口上承り

9・4 宗鏡寺正願御入部御祝儀のため罷り上

がり

9・11 永の御暇の山口順亮の病母引き取り養生申し度く願い(真覚寺)

10・19 見性寺休隠に付き後住薬音寺希胤、薬

音寺後は誓願寺より入寺

10・21 誓願寺後住、見性寺弟子禅岩長老相統

11・15 福成寺徳成住職の件に付き出京

天保9年 2・3 初午に付き、御城稲荷へ参詣の者

にて内町込み合い、御仏詣を代香に変更

4・11 宗鏡寺より西御殿の草木、御石頂戴願

い

6・8 祇園社祭礼(八日夜より十五日夜まで)

7・晦 願成寺無住に付き、光首座後住に相定

め看坊相勤め

8・17 松縄手六地藏宵田町より建立、当年百

五十年忌

8・27 本覚寺少檀にて難渋に付き、軍書講談

願い

9・16 磯部祭礼に付き御代参

天保10年 4・20 袴狭宝積寺再建願い、

7・12 徳永半左衛門の幼児、当分釜屋九兵衛

方へ引き取り願い(経王寺)

7・12 出奔中の高橋専左衛門の徘徊願い差し

下げ(本高寺)

8・8 秀久公御嫡並びに御六男御法号、十日

に昌念寺へ納入

天保11年 正・27 福成寺の独礼を許可

3・5 秀久公御二男ほか十体の御法号、吉祥

寺へ納入

4・24 吉祥寺独礼許可並びに、御齋米三俵

5・22 伊福辺社焼失、再建のため手辺万歳、

芝居興行願い

6・26 諸杉社御本殿修覆明日御遷宮

8・5 諸杉社正遷宮

9・9 磯部社隔年祭礼の年ながら、困窮に付

き相撲のみ、他は休み

10・26 福成寺、善教寺争論裁決書到来(法専

寺)

天保12年 2・8 伊福辺社再建、石場つきに十町の

若者助力願い

2・13 福成寺婚姻すべて目立たぬ様、密々に

引き取りを差し図

2・15 見性寺にて宗法問答あり、小僧旅僧を

たたき出し

3・22 殿様御不快に付き、御機嫌伺いに寺院

共罷り出

4・朔 丹信庵靈及、心光院兼帯を願い出

5・21 伊福辺社石場つき滞り無く相済み

9・29 吉祥寺入院御礼のため罷り出

10・7 一宮社、屋根修覆のため御領内勸化願

い

天保13年 正・14 宗鏡寺再建の上棟式並びに、入仏

供養(三月十一〜十三日)執行願い

2・15 見性寺本秀、宗意勉勵により真綿一把

3・6 宗鏡寺棟上げに付き御備え銀二枚

8・8 福成寺内不和熟にて注意

9・12 口小野村実相寺住持死亡

天保14年 正・25 経王寺出火、本堂、庫裏、位牌堂

焼失

2・15 経王寺印鑑焼失に付き相改め度く願い

2・24 多茂宮再建延引に付き再願(持徳院)

2・晦 多茂宮再建に持ち山の松木寄進仕り度

く願い(足軽ら)

4・14 六部願礼、出家など免許状申請すべき

旨、一期住は帰郷

8・20 宝積寺、中村不動院兼帯。宮内総持寺

観海出奔

12・朔 尊重院にて雛子致し関係者注意、叱り

天保15年 2・24 有馬善福寺本尊、出開帳願い許可

(吉祥寺)

4・晦 宗鏡寺難渋に付き町方志ある者、寄進

世話致し度き旨願い出

5・15 宗鏡寺沢庵二百年遠忌に当たり、表門

再建任り度き旨届け

8・15 因幡屋養子帰住御赦免願い(真覚寺・親

類・組合

8・晦 新寺不許可に付き道場に寺号立てる事

相成らず

10・24 地普請成就、二十九日より建物普請手

斧始め(経王寺)

弘化2年

4・4 金剛院社内、蛭子社修覆の花角力

願い

4・7 角力一日延期願い

12・8 宗鏡寺正順和尚迂化せんげ

12・10 正順和尚内葬に付き白張り十、蠟燭三

十挺遣わし

12・20 正順和尚遷化に付き、宗鏡寺へ御米五

俵

弘化3年

2・10 宗鏡寺後住遺言に依り、徳嶺座元

仰せ付けられるよう願い書

4・17 門垣屋外兵衛、高石塔の下より大黒天

掘り出し本高寺へ納入

5・25 本堂の鬼瓦、懸魚けぎよに御紋御許容願い、

許可(経王寺)

閏5・3 経王寺上棟式、下目付見廻り

閏5・11 宗鏡寺徳嶺入院御礼

6・11 如来寺火災、再建成就に付き御目録

9・19 智明院屋根修覆のため、花角力興行願

い

弘化4年 4・5 九条別業、京都花園大泉寺宝物披

露願い(本覚寺)

4・21 宗鏡寺借入れ皆済出来ず、徳嶺帰国延期(正眼寺・願成寺)

5・13 着衣、帯刀の件に付き大善院より願書  
6・4 小人町稲荷追々大破に付き、宝楽万歳

奉納願い(称名寺)

嘉永元年 5・朔 御城稲荷、鳥居屋根破損修覆願い

(光明院)

12・5 勝林寺にて御姫様御鳴物遊ばされ、御  
付き添いの者不都束差し控え

12・21 本覚寺御拝修覆のため、百日の念仏修

業願い

嘉永2年 閏4・15 八幡社屋根復旧願い(智明院兼帯

光明院)

6・4 智明院、観音堂再建のため町・在托鉢

願い

嘉永4年 8・25 諸杉社、神輿蔵屋根大破に付き修

覆願い

嘉永5年 4・17 博労町幸稲荷社、修覆のため花角

力興行願い

嘉永6年 4・12 福成寺一件に付き西本願寺使僧挨

拶に罷り出

5・13 一宮社祭礼中一宮社、惣持寺争論に付

き申し渡し

11・4 一宮社、惣持寺争論に裁決

嘉永7年 6・18 遊行上人(来年七月上旬)当地巡国

の案内到来

7・8 京都画工岡本亮彦、宗鏡寺に逗留

閏7・5 諸杉社神門大破に付き、御修覆仰せ

付けられ方御願い

8・23 諸杉社御屋根御繕い出来、今晚正遷宮

10・10 吉祥寺火災にて焼失、御位牌無事

11・25 先達ての吉祥寺火事に格別心配り致し、

御吸物御酒頂戴(町奉行福垣広門)

社  
安政2年 8・8 御趣意これ有り当年町方祭礼は、

諸杉(九日)、在方は一宮(十一日)と同日たる

べき旨

安政4年 7・朔 今朝の風雨にて昌念寺鐘撞堂倒壊

8・晦 如来寺角力興行願い、新善光寺月中開

帳、遠忌会

万延元年 8・8 極楽寺大破に付き取り縮め建て置

き

文久3年 8・17 宗鏡寺住持徳嶺死去

元治元年 4・24 出石社より寄付願い

4・24 昌念寺より鐘鑄直し願い

10・15 宗鏡寺入院挨拶

慶応元年 閏5・4 御城稲荷屋根修理出来、六日夜

上遷宮

慶応3年 8・8 経王寺入院御礼に付き、御対面所

へ罷り出

慶応4年 8・6 御城稲荷社、伏見稲荷社へ神位を

請い受け

8・12 御城稲荷、御神位の件に付き報告(京

都表より)

8・14 御城稲荷社、正一位御神階を請けさせ

られ候由

8・18 稲荷社御神階御着、殿様本供にて御社

参

9・17 (御城) 稲荷社御祭式等を規定

10・朔 神仏混淆致さず候様云々の達し

明治元年 11・3 大善院、日下部部と改姓名

明治2年 正・17 福成寺一件に付き、西本願寺より

来藩挨拶

4・7 福成寺一条に付き伺い書提出(寺中末寺

転地)

明治3年 2・22 寺院へ合併を指示

6・4 当年限り神仏共夜祭り廃止を触れ

12・27 なるべく神葬祭に相帰すべき旨触れ

明治4年 2・13 一家は当主と同宗たるべき旨触れ

## 2 祭礼・祈祷

付き下目差し出し

9・7 諸杉祭礼の節の六町練り物、書付け差し出し

文化15年 正・10 一宮社に於いて二夜三日武運長久

の御祈祷執行

2・朔 御城稻荷明二日初午に付き、大手御門

前々の通り申し談じ

文政元年 7・5 雨乞い(中・上村)

7・9 早魃に付き雨乞い(菅谷四か村)

7・26 田畑早損難儀のため、明二十七日雨乞

い(袴狭村)

文政2年 2・7 初午に付き大橋明け、祭後再び往

来留め(大橋修理中)

6・15 祇園祭礼中異状なき旨、下目付報告

6・29 雨乞い(菅谷四か村)

8・10 荒木村八幡宮祭礼に馬、例年の通り拝

借願い

文政3年 6・15 祇園祭礼(十七日本高寺、弁天祭)

文化12年 9・7 来る諸杉祭礼の節、罷り出候練り

物の書付け差し出し

9・9 練り物を殿様御棧敷にて御覧

9・10 昨日雨天に付き、練り物諸芸廻り残り

の分、本日相廻り許可

文化13年 正・10 今般御手伝い(上野本坊普請)仰せ

付け蒙られ候に付き御祈祷

6・18 悪天続きにて稲作等悪しく、雨晴れ御

祈祷仰せ付け

9・16 磯部祭礼に御代参(荒木甚兵衛)

文化14年 6・11 夜前、知明院観音祭礼に付き見廻

り

6・15 祇園祭礼中並びに今朝、嘉利帝祭礼に

9・8・9 諸杉祭礼

文政4年 5・23 下郷荒木村、細見村鉦太鼓を以つ

て雨乞い仕りたく願ひ

6・朔 六月中町・在祭礼日程

7・朔 当月祭礼九・十日宮内村観音、十六日

高石塔、十九日心光院観音、二十三日地藏二

十四日山々火振り、二十五日佐野天神

8・朔 当月在方祭礼十五日荒木村・田多地村

八幡、二十二日見開

9・7 諸杉祭礼練り物書付け差し出す

9・9 殿様練り物御覧

9・16 磯部祭礼に付き銀一包御初尾

文政5年 3・12 一宮社に於いて十八日より二十日

まで五穀成就御祈禱

7・朔 宮内観音祭礼九・十日

文政6年 2・17 五穀成就厄病除けのため一宮社に

おいて五夜五日の祈禱

2・21 一宮社二十五日より祈禱。祈禱料銀三

枚・米三俵

6・2 菅谷四か村旱損に付き明三日雨乞い

(七日 弘原中村 安良・田多地・袴狭村)

6・15 祇園祭礼中並びに葉師祭礼

7・3 菅谷村々雨乞い

7・17 惣町より早魃に付き明十八日万灯山並

びに、古寺にて雨乞い仕り度く願ひ

9・26 殿様御不快に付き、藩士より御祈禱差

し上げ度く伺い

文政7年 3・7 御不快中、町・在その他御祈禱仕

り御礼のため下され物

6・19 清正公祭礼二十三日に付き御届け(経

王寺)

文政8年 8・27 福知山より疫病の侵入を防ぐため、

登尾峠に祈禱札建ておき

8・29 雨晴れ、疫病祈禱執行(諸杉・一宮社)

文政10年 5・15 例年通り御代参(稲荷・諸杉・秋葉社、

聖天・下山)



三 寺社・雑編

9・16 磯部祭礼

文政11年 2・10 御城稲荷へ蚤御祈祷に付き御郡奉

行御代参

文政12年 2・6 初午

天保2年 7・3 早魃に付き清水山にて明四日雨乞

い仕り度く願ひ(弘原上村)

天保3年 正・7 一宮社にて例年の通り、明後九日

より十一日迄武運長久祈祷

天保6年 9・7 諸杉御祭礼は厚く詮儀の上、今少

し延引申さるべく

天保8年 7・20 去秋凶作に付き、当年の豊作を諸

杉社に御祈祷

9・15 八日から晴天なく一宮社において二夜

三日の内、雨晴れ御祈祷

天保9年 正・28 清水住居の面々病氣多に付き若宮

へ祈祷料

2・9 凶作、疫病除け祈祷に付き参詣許可の

触れ(御城稲荷)

9・13 呉服大明神祭礼、九月十七、八日持徳

院相勤む旨

天保10年 2・3 二の午(十六日)に稲荷社で二夜三

日の蚤祈祷

6・5 祇園祭礼当月七日より十四日迄

6・15 田畑干損に付き十五・六日雨乞い仕り

度く願ひ(上・中村、十七日菅谷、十九日上野村)

7・朔 秋葉社祭礼日、九月二十四日に変更

9・16 磯部祭礼に付き御備え銀壱包

天保11年 2・8 御台様薨去(去月二十四日)に付き、

明日の初午は二の午に延期

2・17 近年凶作に付き飢死者夥しく、千部經

読誦(高福寺)

9・15 十七日より十八日迄呉服大明神祭礼

9・15 磯部氏子四町行事より、祭礼に付き御

願ひ

天保12年 正・10 来る十三日節分に付き、大手御門

通路毎々の通り、通行許可

2・8 光明院稲荷祭礼に付き、御太鼓拝借願  
い

2・8 蚕御祈禱、近年通り二の午当日を中日  
に二夜三日

2・12 岩鼻稲荷<sup>ほなす</sup>疱瘡御祈禱

3・晦 殿様御不快に付き、薬王寺より御祈禱  
札差し上げ

3・晦 御城稲荷蚕祈禱、光明院より申し達し  
許可

6・20 昨夜智明院観音祭礼

9・8 荒木村八幡祭礼に御貸し馬

9・9 御服中に付き<sup>わらも</sup>選物これ無く、御棧敷建  
て申さず御出もこれ無く

天保13年 9・12 磯部祭礼に相撲許可

天保14年 2・15 光明院、御城稲荷にて蚕祈禱(二

十日より二十二日迄)

3・4 火災たびたびに付き御城稲荷、秋葉社

へ御祈禱

9・7 荒木村八幡祭礼に付き装束馬拝借願  
天保15年 9・12 磯部祭礼、屋台引き出し囃子作り  
度く願(魚屋町ほか)

9・15 十七日より十八日まで呉服大明神祭礼  
の旨持徳院申し達し

11・朔 大馬印新規出来、西林寺にて御加持

12・4 疱瘡流行に付き御城稲荷に於いて御祈  
禱

弘化2年 3・7 一宮に於いて五穀祈禱

弘化3年 5・28 雷除け祈禱、一宮・諸杉・稲荷・  
磯部・秋葉社

弘化4年 5・28 一宮社ほか雨晴れ御祈禱

嘉永元年 10・15 厄病追々流行に付き諸杉へ御祈禱

10・25 厄病流行に付き、荒神社に於いても二  
夜三日御祈禱

嘉永2年 7・27 厄病流行に付き諸神へ御祈禱

10・17 町方、厄病流行に付き御祈禱方願い

嘉永3年 6・朔 十町の者共雨晴れ御祈禱、諸杉・

三 寺社・雑編

稻荷・磯部・伊福辺・一宮社

8・朔 厄病流行に付き、二夜三日病難除けの

御祈祷仰せ付け

8・6 一宮社において二夜三日雨晴れ御祈祷

仰せ付け、御祈祷料金二百疋

11・8・9 洪水にて延期の諸杉祭礼執行

11・11 磯部社祭礼十五日より十六日相勤め候

段申し達し(西林寺)

嘉永4年 8・12 豊作並びに御無難祈祷(諸神)

嘉永6年 7・朔 旱天に付き七年山にて雨乞い願ひ

(弘原谷四か村)

7・10 宗鏡寺龍王及び稻荷・諸杉・磯部・八

幡・神明社に雨乞い御祈祷

9・27・28 御城下の各社、延期中の祭礼本日執

行

嘉永7年 6・朔 六月中町方祭礼日程

安政2年 6・15 照り続きに付き雨乞い、袴狭村並

びに菅谷四か村

安政3年 4・20 春以来山之中辺狐狸に迷わされる

に付き御城稻荷に御代参

8・11 明十二日二百二十日に付き惣休み氏神

へ雷除け祈祷の事、惣町方へ触れ

安政5年 6・25 一宮社、二夜三日の雨晴れ御祈祷

8・14 御近領厄病流行に付き病難除け御祈祷

安政6年 7・11 厄病流行に付き御祈祷

7・12 厄病流行に付き、他所者も宿屋付き添

いの上御城稻荷社参詣差し許し

7・27 厄病流行に付き惣町相休み賑々しく参

詣の旨達し

7・29 霍乱かくらんの病氣流行に付き御祈祷申し付

け

8・8 病人多に付き引込み中の医師も、療養

に罷り越し苦しからず旨

8・17 厄病流行に付き、殿様御供揃いにて御

社参

8・18 御医師引込み多に付き伴共御雇ひ

8・20 厄病除けに空砲発射を願い出(月番名主)

11・12 病難除け御札差し上げに付き御供物等

頂戴

文久元年 8・4 殿様厄年に付き御代参仰せ付け

元治2年 正・24 初午の節大手御門外に御旅所設営

(御城入り禁止)

慶応元年 閏5・2 植え付け難かしく一宮において

二夜三日雨乞い御祈祷

6・15 雨晴れ御祈祷により照り上り候に付き、

御神楽仰せ付け(諸杉社外領内各社)

慶応2年 正・28 初午は昨年通り大手御門前に御旅

所設置

2・12 諸杉・稲荷・秋葉社にて二夜三日の火

防ぎ御祈祷

8・9 荒木村八幡祭礼洪水に付き九月朔日に

延期

慶応3年 2・4 初午の警固厳重

慶応4年 5・13 雨晴れ祈祷のため、惣町明十四日

半日休み参詣の旨触れ

6・16 御新造様腹痛に付き御年寄御祈祷

8・19 稲荷社御祭礼に付き町々より幟奉納

9・朔 諸杉社祭礼の御備え(神主長尾日向)

明治元年 11・3 御城稲荷、年々十一月八日を御祭

礼日に決定

明治3年 8・23 九月の諸社祭礼日統一(八・九日)

明治4年 正・15 初午祭従前の通り昼夜に拘らず、

城内の参詣勝手たるべき旨

2・10 十四日より二夜三日、一宮社において

祈年祭(例年)執行

### 3 火事・災害

の被害、御用番へ差し出し

6・8 口小野村善右衛門より出火(次三郎類焼

類焼に御救い米)

文政元年 10・8 新町嘉七出火(追し込め)

文政2年 4・10 御城山日野辺分御林、火事

6・12 今日地震。御城・御対面所・清水・町

方家居等破損なし

11・20 本町嶋屋源次方出火(早速消し留め)

12・16 谷山曲輪くまわより出火(早速消し留め)

文政3年 3・11 寺坂村火災にて二十軒焼失(十五日

に始末書)

3・19 昨夜より出水、大橋下増水六尺。伊佐

村増水六尺五寸にて舟通路留め

5・27 今日大雨に付き大橋下増水六尺

9・8 新橋津出し小屋より出火(類焼一件)

9・19 桜尾渡辺彦右衛門、出火

11・19 裏町魚屋勘次郎灰小屋より出火、小屋

押し倒れ鎮火

文化13年 3・24 出町足軽次郎太夫土蔵より出火

(同人追し込め)

6・9 麦稲木焼失(伊豆村源助・六郎右衛門)

8・7 嶋村郷中間留守宅土蔵、小火

閏8・4 昨夕より大風雨にて大橋下増水六尺

↓八尺余

閏8・5 大水にて踏み外し、水死(菅田町惣

右衛門)

閏8・17 魚屋町水車屋より出火

10・18 揚枝谷中西百助、下男部屋より出火

10・晦 出町目当場焼失、火元わかり難し

11・10 閏八月の洪水被害江戸表へ差し立て

文化14年 正・15 昨年閏八月三日夜よりの風雨洪水

3 火事・災害

文政4年 5・20 火事、宮内村五郎左衛門居宅、部

屋、雪隠焼亡

8・5 昨夜中、大雨にて大橋下七尺増水

文政5年 正・10 夜九ツ時、和田山下にて一軒焼失

7・26 今曉大橋下増水五尺五寸、新橋橋杭一

本損傷

10・6 鳥居村百姓家焼失、伯父伊佐衛門焼死

文政6年 4・3 桐野村にて火災(類焼一軒へ御救い

米)

4・4 夜八ツ時ごろ鉄砲町橋より西、裏町町

家より出火、田結庄町、川原町、鉄砲町御長

屋等焼失、松縄手の松六、七本火付く。五日

朝六ツ時過ぎ鎮火。焼失家屋(家中三十一、町

方二百四十一軒)

4・5 昼八ツ時地震

5・3 竹野村今曉出火およそ二百七十軒焼失

(十日にも記載あり)

10・20 小御料庄町小火(重田甚五兵衛)

文政7年 11・21 昨夜より大雪に付き出仕御用捨

積雪四尺五寸程

文政8年 8・14 昨夜より大雨、大橋下にて七尺三

寸、暮れ六ツ時過ぎより引き水

11・18 魚屋町鍛冶小助方、小火

文政9年 4・晦 田結庄町袴狭屋休兵衛方、夜五ツ

時火事沙汰

7・朔 川原町裏にて火事

10・7 夜、下村火事

10・24 二十日昼後、日野辺村儀兵衛宅火事

文政10年 正・3 榎見にて火事、二軒焼失(類焼へ御

救い米)

2・3 奥山村火事(類焼三軒に御救い米)

9・20 七軒町口、藁稲木燃え上り

11・8 博労町川原にて火事(老母焼死、類焼三

軒)

文政11年 5・20 七軒町、麦稲木燃え上り(持主丹後

屋追し込め)

5・晦 大川(出石川)出水、大橋下増水五尺程  
文政12年 正・5 大雪にて江戸へ差し立て便見合わ

せ

2・晦 田結庄町倉見屋忠七後家宅、火事

6・13 昨夜雷雨に付き出水、新橋四、五間落下

7・18 今朝より風雨にて大橋増水、六尺、八

尺に及び、夜九ツ時より引き水

9・26 夜五ツ時寺町より出火、四十二軒類

焼して九ツ時ごろ鎮火

11・7 袴狭村平兵衛宅焼失

文政13年 7・2 夕七ツ時ごろ強地震に付き、大殿

様へ伺い紙面差し出し

7・6 京都大地震の知らせ到来

8・3 朔日、美含郡大雨にて山崩れあり人家

埋没(十一日に御救い米)

10・15 八月朔日の洪水被害、幕府へ報告

天保2年 8・朔 大谷村久四郎宅より出火、類焼三

軒

天保3年 3・2 鉄砲町裏の藁稲木焼失

4・20 大風に付き見廻り候処、御殿所々破損

4・20 大風にて松原より六地藏上の松、大木

二本倒れ往来不能

9・13 新橋、昨夜の出水にて往来留め

天保4年 6・29 夜九ツ半時ごろ出火、伊福辺社、

末社拜殿迄残らず焼失

7・朔 昨夜の火事不動院より報告(焼死者一

人)

12・7 稲木火災、早速消し留め(七軒町上、下

村分百姓 友七)

天保5年 7・18 夜四ツ時、裏町宮内屋五助方小火

天保6年 5・21 昨夜より引き続き大雨にて大川増

水、大橋下五尺余

5・29 当二十一日の洪水による被災場所

閏7・7 大橋下出水六尺、長砂喜市橋橋杭流

失

閏7・8 松縄手並木、昨日川中へ相倒れ船往

来故障

閏7・11 竹野浜村当月三日大火事(類焼二百七十五軒へお米二斗ずつ)

9・27 五月より傷寒(烈しい熱病)流行、病人

多く難渋(奥山村)

10・14 当五月二十一日の風雨にて損毛一万一

千八百七十七石三斗六升一合

11・7 田結庄町吹田屋儀七(鞠商売)小火

11・11 12 13 大雪にて家破損。左京宅雪掻き願

い(左京取調べ申)

天保7年7・14 田結庄町湯谷、小火

8・14 大川増水六尺四寸

天保8年 6・6 昨夜より大雨、大橋下六尺五寸、

新橋、川原橋少々落ち候由

8・14 一昨夜よりの大雨にて大橋下増水六尺、

役人相詰め

8・27 夜五ツ時ごろ福成寺川原非人小屋より、

出火焼失

9・11 雨風強く増水、大橋下にて五尺五寸

天保9年 3・21 鍛冶屋村火事、北西の風強く十九

軒焼失

閏4・2 魚屋町嶋屋弥兵衛宅出火、町同心見

付け一同で消火

6・10 出町百姓文左衛門、手過ちにて雪隠く

すぼる

8・4 出町柴田周左衛門部屋より、出火

(類焼なし)

8・14 出町関庵介宅焼失(類焼なし)

8・28 夜八ツ半時過ぎ新町出火、二十軒焼失

8・29 火災多く当分夜火の番を指示

10・15 山椒畑御坊主宅一軒焼失、城下外れに

付き火元へは罷り出ず(御用番)

天保10年 2・19 領内水難に付き、被害届け脇坂様

へ差し出し

2・27 先達ての新町大火の火元、良助方と判

明



4・4 奥小野儀次郎方出火、甚次郎類焼

4・5 新屋敷出火、十軒並びに土蔵一か所焼

失

4・9 大谷村与七出火(類焼なし)

10・27 二十五日夜牛小屋口より出火、類焼者

へ御救い米(奥小野村文七)

天保11年 3・2 (十二月十三日) 大雪にて罷り帰らず

相果て居り(桐野村市次郎娘さと)

天保12年 正・16 昨十五日、雪にて井上謙蔵宅門並

びに高塀倒壊

正・21 消し炭根駄下へ仕舞い置き、小火(田結

庄町京屋喜八郎)

2・20 新町喜三七宅、火燧より出火直ちに消

し留め

3・11 上小田村にて入湯客の乗り合い船、転

覆一件(十八日、二十二日にも出)

3・27 片間村六兵衛宅より出火(四軒焼失、人

馬、制札無事)

5・9 今朝出水六尺、新橋の橋杭三本ほど流

失

12・26 暮れ時前、裏谷山西林寺より出火、長

屋過半焼失

天保13年 5・22 八木町上ノ町、町医後家宅出火

(後家追し込め)

8・28 大雨にて出水、大橋下にて五尺五寸?

六尺五寸

11・20 弘道館にて、火鉢の底の熱で畳焼け

(差し控え伺い)

12・22 新町先唐津屋より出火、直ちに鎮火

天保14年 3・3 八木町大工頭久右衛門宅より出火

(類焼一件)

8・9 片間村火災(類焼二件)

天保15年 3・6 袴狭村喜兵衛、火元(類焼八軒)

6・18 蚊くすべより、かなな屑に火移り、小

火(本町大工 升田屋 喜兵衛)

10・12 宮内村半兵衛当九日出火本家、土蔵焼

失

10・15 宵田町釜屋与市郎、小火

弘化2年 3・25 福成寺飯焚き小屋より出火、直ちに消し留め

に消し留め

8・朔 大橋下出水五尺

12・21 大橋に繫留中の御用船、雪解け水で流れ一艘は大破

12・29 五尺程降雪

弘化3年 閏5・22 落雷にて柳町大友市太夫宅全焼

7・9 唐津山小屋、小火(和泉屋六右衛門)

弘化4年 4・4 見性寺裏、稲木小屋燃え上り始末書(川原町住居 庄五郎)

書(川原町住居 庄五郎)

4・10 昨夜来大雨、今朝増水し六尺五寸

5・4 八木町堺屋新助より出火、直美屋等類

焼

5・27 大橋下増水、昨夜八ッごろ六尺に相成

り候由

7・14 今暁より大雨にて大川筋増水、大橋下

五尺五寸

7・17 十四日の大水にて、鉄砲町御堀の土手

損じ御繕い相伺い、

7・27 四月十日、七月十四日、同二十二日の

風雨被害、公儀へ報告

弘化5年 2・15 見性寺裏稲木小屋より出火(川原

町松本屋新兵衛慎み)

嘉永元年 4・11 魚屋町門垣屋宇兵衛、屋根裏くす

ぼり消し留む(慎み仰せ付け)

4・13 夜四ッ時過ぎ博勞町裏、御中間宅より

出火、五軒類焼

8・9 風雨強く昼ごろ、大橋下五尺五寸程増

水

8・13 大風雨にて大川増水六尺五寸、役人大

橋に相詰め

嘉永2年 4・4 因幡屋勘五郎焼物小屋、出火

5・29 今昼過ぎより大雨、夕方大橋下五尺増

水

- 6・17 奥小野村初次宅、出火焼失
- 7・6 出町伊助宅、出火
- 7・20 鉄砲町裏稲木小屋より出火、裏町万助  
の小屋だけ焼失
- 12・9 大雪（七尺余り）に付き御仏詣、上納日  
延期
- 嘉永3年 正・23 夜四ツ時過ぎ御厩<sup>うまや</sup>にて出火、早速  
消し留め
- 3・19 百合村和平宅出火（類焼宇平・作平）
- 4・22 未明に地震、騒雨、又晴れ
- 8・5 夕七ツ時より暮れ過ぎまで大雨にて、  
大橋下六尺九寸の増水
- 8・14 八月五日～八日の洪水被害、公儀へ報  
告
- 9・3 風雨強く城下その他大洪水、大橋下に  
て九尺三、四寸
- 9・4 昨夜大水に付き三御門明け置き
- 9・5 洪水の被害状況見分（御年寄以下奉行共）
- 9・6 洪水に付き諸杉御神事、十一月迄御延  
引仰せ出し
- 9・6 洪水被害御普請奉行より申し達し、公  
儀へも届け出
- 9・6 在方洪水被害
- 9・13 床上浸水の家中へ御心付け、銀二十五  
匁ずつ
- 9・15 「御構い」、破損修覆に協力方申し出  
（惣町中）
- 9・22 洪水破損修覆に付き合力申し出、御目  
付以下惣御侍
- 9・27 洪水被害、公儀へ届け出
- 10・4 洪水に付き御直書を以って仰せ出し
- 10・9 洪水に付き御用人足差し出しを申し出  
（糍屋ほか惣町等）
- 10・11 人足、石灰等差し上げ度く願ひ（鍛冶・  
油・塩屋仲間共）
- 10・15 人夫四十人手間差し出し願ひ（大黒・因

幡・和泉屋

10・15 油屋共、石灰三十俵代百匁、塩屋共人足三十人代五十四匁差し上げ

10・27 町方紺屋共人足十五人、養父郡各村人足合力申し出

12・朔 洪水の節、合力により御酒料町方、御米在方

12・11 洪水合力のため人足料として金六両差し上げ(鍋屋 長平、岸田屋 新平)

嘉永4年 9・23 鉄砲暴発にて大蔵怪我、加害人近次親類預け(小御料庄町)

9・24 助八伴大蔵、鉄砲にて打たれ今晝相果て

9・25 大蔵両親より、近次処分穩便方願い書提出

10・17 鉄砲町裏稲木小屋より、出火

11・5 野田源八伴近次、出家願い(鉄砲暴発事

件)

11・21 源八伴の不調法により永の御暇、ただし養子の節は新抱え許可

11・25 源八伴近次、経王寺へ出家許容

嘉永5年 正・28 地震甚し

3・2 河原町茗荷屋長蔵、部屋より小火

5・11 増水六尺に相成り、先例の通り小役人共大橋へ相詰め

7・22 大川増水六尺、御役人大橋へ相詰め

8・23 昨夜大雨増水六尺余

嘉永6年 9・12 七月二十二日、八月二十二日洪水被害  
正・28 田結庄町油屋弁助裏土蔵より出火、すぐ様鎮火

嘉永7年 2・晦 嶋村喜兵衛宅、出火(二軒焼失)

4・22 夕七ツ時、揚枝谷燗硝調合場爆発、怪我人出来

6・15 地震

6・17 京都大地震の由、京都御屋敷詰め浅沼

市兵衛より飛脚

11・4 朝四ツ時前地震強く長し、夕方も折々地震

11・5 地震、尤夕七ツ半時過ぎ兩度強く夜分もたびたび強し

11・6 7 8 たびたび地震

11・8 この間中の地震、豊岡殊の外甚しく御見舞い状差し立て

11・19 堀鯉助大坂より上方の地震惨害について報告

11・21 地震に付き大目付触れ

11・25 たびたびの地震無難に付き、一宮社へ御礼の御初穂

12・朔 大地震により別便仕法に付き増し銀要求〔江戸屋安右衛門〕

安政2年 8・12 桜井宣藏宅より出火、全焼

8・13 居宅焼失に付き桜井宣藏、熊一ら竹村

猛吉方へ立ち退き

8・20 今朝より大雨昼ごろより風、大川筋増

水六尺

8・24 二十日の風雨の被害状況

11・13 今朝下魚屋町横町、出雲屋出火、七軒焼失

安政3年 5・24 下郷安良村庄屋弥右衛門出火、三

軒焼失

5・27 弘原上村七右衛門宅より出火、焼失

7・29 樺田庄右衛門宅出火

11・9 御城山、福成寺繩手地藏堂の上、山火

事

12・9 博勞町火事、二十六軒焼失

安政4年 2・15 鉄砲町裏の稲木小屋より出火

7・朔 今昼ごろより東南の風強く、松繩手の松五本倒木

安政5年 正・19 今曉、材木町井筒屋常次後家宅小

火

7・4 夕七ツ半時ごろより雷雨にて大川出水、

大橋下五尺九寸

- 8・10 昨夜大雨、大橋下増水六尺五、六寸
- 11・晦 今暁、裏町太田彦太夫居宅出火、丸焼
- け類焼なし

安政6年 正・25 弘原中村与七宅より出火、治平宅

類焼

- 2・24 荒木村七郎左衛門宅出火にて焼失
  - 3・5 田多地村庄平宅より出火、十五軒焼失
- 万延元年 閏3・晦 増水六尺近く役人出張す

- 4・4 先月晦日夜出水、大橋下増水五尺
  - 5・11 大雨にて増水六尺
  - 5・15 増水五尺
  - 6・10 今朝より東南の風にて大水、谷山川溢
- 水、大川七尺五寸

- 6・11 昨日の出水被害(十五日にも被害状況)
- 7・19 六月十日の水害に付き、公儀へ被害報告

文久元年 3・6 袴狭村忠右衛門宅出火、一軒焼失

3・13 日野辺村又右衛門焼失

- 7・6 嶋村与七火元、吉次類焼にて二軒焼失
  - 9・3 川原町の庵出火、直ちに消し留め
- 文久2年 2・9 田結庄町広谷屋文次、炬燵こたつより出火、小火にて済み

3・25 和田山御林に類焼(材木町骨柳屋小兵衛畑より出火)

5・6 西林寺長屋より出火、本堂、庫裏等別条なく

- 12・15 鱒山茜屋善左衛門唐津窯小屋、小火
- 文久3年 7・14 大川増水六尺五寸
- 元治2年 正・29 今暁大地震

3・4 昨三日森井村作次郎出火、類焼二件

慶応元年 6・26 揚枝谷陶器窯の覆い焼失(田結庄町竹貫屋)

- 8・19 御櫓辺にて燔硝はしり出火、直ちに消し留め

慶応2年 正・23 弘道館小火

2・4 初午、八ツ時火事沙汰、小御料庄町よ

り出火、博勞町、小人町へも延焼大火

2・24 宮内村伊兵衛伯母みよ宅、二十二日に

焼失

2・27 竹野村大火、家数二百五十九軒焼失

3・19 焼物窯覆い屋根燃え上り(七味屋持ち、

竹貫屋借山)

5・8 普請は類焼の方を重に致すべく触れ

5・15 降り続き昨夜より強雨、大川筋増水六

尺

5・29 十五日の水損、公儀へ報告の下案出来

6・3 今晚出水、大橋下増水五尺

6・24 大工職等へ、類焼普請優先の達し解禁

8・7 強雨にて増水、大橋下にて夜七ツ半時

に八尺八寸

8・16 今晚より強雨にて大川増水六尺

8・晦 先般の洪水被害、公儀に報告

12・12 五月の洪水被害高一万九千四百五十五

石八斗八合

慶応3年 正・16 馬場町岡嶋勘之助宅小火、差し控

え伺い提出

4・2 丸谷村長平宅出火、一軒焼失

12・22 日野辺村清三宅火元にて類焼四軒

慶応4年 5・12 日々降り続き、昨夜は強雨にて今

朝増水六尺

明治元年 10・24 今晚六ツ時過ぎより称名寺出火、

全焼

12・3 日野辺村伊助方より出火、類焼二件

明治2年 5・22 鍛冶屋村、鍛冶屋治平より出火、

六軒焼失三軒半焼

11・8 鉄砲町裏稲木小屋焼失

明治4年 5・19 一昨夜より暴風雨今晚洪水八尺余

4 維 新

明治2年 正・16 官等御改め

2・4 京都高野警衛場引き払い方、軍務官よ

り達し

2・14 奉勅改典の御書付け、一同へ相渡し

2・14 御再幸に付き京都御警衛(精兵五十人)

下命

2・15 京都警衛のため出京仰せ付け

2・17 版籍返上を決定し家中へ発表、政事向

き鋭雄へ委任の旨

2・17 奉勅改典の御願い書御差し出し

2・20 公儀人、分課を定めて専攻

2・22 参府に付き鋭雄名代を願い出

2・晦 下情壅塞(よちやく)(ふさがる)これなき様、下議

員御立てに付き入札人撰の旨

3・3 文燮改制(自十歳至二十五歳)、武校改制

(自十五歳至三十六歳)

4・10 池田吉太夫、寺嶋忠右衛門ら下議員申

し付け

4・23 兵制御変革に付き、徴兵ひとまず帰休

仰せ付け

5・22 朝廷の御下問に付き若殿様(銳雄)より

意見具申

5・22 是迄の医師、画工、諸職人等の位階国

名廃止

6・4 天保六年以来の永の暇、出奔者取り調

べ

6・7 脱籍者帰住赦免

6・10 正金を朝廷に納め金札受領(二万石に付

き二千五百両)の達し

6・15 員外議事に竹村十学・杉原三郎兵衛

6・21 正金上納の件に付き東京より近況連絡



- 7・22 藩内諸事取り調べ書、東京へ差し立て
- 7・23 正金上納に苦慮、家中へ触れ
- 7・28 職員令(藩のみ抜粋)
- 7・28 改革に付き政府へ条々御伺い
- 8・朔 位階の上下の称廃止(仙石従五位と認むべき旨)
- 10・14 桜井熊一権少参事に、荒木均大参事仰せ付け
- 11・22 農商の等級を御一新
- 12・4 表札寸法相定め
- 12・5 帰参に付き一人扶持(山田熊太郎ほか)
- 12・8 休日、営業時間等制定
- 12・8 商社の設立を奨励
- 12・10 公選にて少参事仰せ付け
- 12・18 兵制、書付けを以って申し渡し(総官河合寛吾)
- 12・20 小頭以下へ誓書差し出すべく達し
- 12・25 禄制改革を申し付け

明治3年

- 正・13 今日文武校を開校
- 正・17 女学上校並びに下校開校(心光院、勝福寺)
- 正・18 女学校教授仰せ付け(小川少参事母ほか)
- 正・23 女学下校へ凶荒に付き七月迄料理稽古見合わせ
- 正・29 男女婚姻期限来月十五日迄日延べ仰せ出し
- 2・13 大・小参事陣笠、提灯、雛形通り相改め
- 2・13 宗門帳廃止、人別帳御創め
- 2・23 御門開閉の掟(六字開き、十字閉め)
- 8・3 四・五日女学上下校祭神御祭礼、拝見勝手
- 8・10 女学下校願成寺旧跡へ御移り
- 8・28 五節の称、八朔の祝い廃し、七節の祝賀に改正
- 閏10・2 女学校改名移転(上校旧正眼寺、下校

旧願成寺

閏10・19 土族、卒族の称、定禄の变革

閏10・27 文校教官職員名簿

閏10・29 武校教官職員名簿

11・2 学校教官職員の職俸

11・9 倉稟口門、同奥門掟

11・23 知事より書付けを以って意見具申を依

頼

11・27 市校、郷校を開校

11・27 郡中の吏職を变革、大・小郷正(市正)

大・小里正(坊正)

11・29 市校を東西市校と称すべき旨

12・3 少郷正へ事務取り扱い方を達し

12・3 市正、里正等を発令

12・8 郷・市正等正の字を長に相改むべき旨

12・17 兵隊、学校相当職表(仮)

12・22 右の職制を相定む

12・24 大里長ほか申し付け

明治4年

方御書取り申し付け

2・2 武学校開業

2・20 女学上校休日を二の日から一の日へ改

正

2・24 郷卒は二名を以って定禄とする旨

2・27 郷住規則

3・4 市・郷校教官職俸改定

5・4 市校へ学費米二石

5・23 島村衡平より学校運営に付き意見書

5・29 文校・武校職員職俸改定

7・10 戸口、社寺懸りを戸籍掛りと改称

7・23 藩を廃し県を置くべき旨の詔書を拝見

7・29 区中番号の付し方を指示

9・29 旧押伍を伍長に、更に軍曹に改称

9・30 兵隊出張中の手当仮規則

10・3 市校は県学校へ、女学下校は上校へ合

併の旨

10・4 兵隊中に伍長を置く

11・4 幼壯の者の就学を督励

11・10 出石県等廃止、豊岡県を置かれる旨

11・27 文学校、女学校、郷校当分閉校

12・13 豊岡県支庁出石局となる旨

12・22 桜井熊一松山県権参事へ

12・28 軍事方、法制方廃止、庶務方を置かれ

る旨

明治5年 正・29 兵隊の称号廃止、解隊、給(休)養

の儀当月限り廃止

## 5 辰鼓楼

明治2年 11・20 時鐘御廃し鐘撞き料当分五石成し

下ざる(昌念寺)

11・20 時鐘廃止、太鼓を以って御報知

11・25 太鼓は時報に付き一切禁止

12・2 昼夜を十二時に御割り定め

明治3年 正・5 辰鼓方へ雇勤仰せ付け(梅垣亀三)

6・23 司兵局・武校爾来大小鼓廃止

8・23 辰鼓方手落ちこれ有り、辰鼓方赦免謹

慎(役卒松賀)

明治4年 4・14 辰鼓掛り廃止、藩庁門衛へ辰鼓を

付属

4・14 辰鼓楼落成、献上の者へ杜康(酒)二石

五斗差し遣わし

10・16 県庁門宿衛並びに辰鼓掛り申し付け

## 6 楽々園

明治2年 11・22 鐘鑄谷を楽々園と名付け、四民の

歓楽忘憂の地となす旨仰せ出し

11・25 楽々園開園御触れ

11・27 28 楽々園に西湖柳ほか献上(田中耕作ほ

か)

11・28 楽々園落成の祝砲(凌霄・回天隊)

11・28 開園人足百人献上(鳥居村百姓)

11・29 楽々園開園(知事公至り玉乙)

11・30 楽々園にて歓楽の心得

11・30 歓楽を妨害し謹慎

12・2 楽々園規則追加揭示

12・7 家中へ野菜作り奨励、庭木類は楽々園

へ献上を奨励

明治3年 2・29 庭園の樹木を楽々園へ献上(宮内

村 金石衛門、袴狭村 忠右衛門)

3・4 下郷宮内組十三か村より庭前の植樹献

上

3・10 心光院天満宮、楽々園へ御移転

4・4 妻、下男召し連れ楽々園へ赴き差し控

え伺い(西山少参事)

4・5 心光院観音堂、楽々園へ転造

6・4 楽々園にて盗みに付き牢舎入り申し付

け(中村利八郎)

編集関係者

町史編集委員会

会長 廣井 實

副会長 尾家 次

委員 石田 善人

岡本 久彦

寺嶋 律

町史編集室

編集 赤在 義信

吉谷 礼子

発行関係者

助役 中原 久雄

総務課長 保田 祐一

庶務係長 岡山 巖

(出石町史別冊)

分類 出石藩 御用部屋日記

昭和57年9月1日 第1刷発行

昭和57年11月1日 第2刷発行

編集 出石町役場総務課  
町史編集室

発行 出石町

印刷 河北印刷株式会社

